

今月の一言

キーワード：変わらないことは、変わることに

斎藤：組織論とは、永遠に進化し続けていくでしょうね。エルメスのCEOを努めたパトリック・トマさんとは、オフィスが隣同士だったので、よく雑談をしたのですが、ある時、「この時代、コンスタントなことはひとつしかない」と言う。それは何かというと、「全てが常に変わっていくことだ」と。ぼくも、その通りだと思いました。状況は、日々刻々と変化していくので、その瞬間瞬間で考え、変えていかなければならないもの、それが組織だと思うのです。経営とは、それに合わせて舵を取ることです。20～30年前の高度成長期には、学校で一生懸命勉強して、いい大学に行って、いい会社に入れば、ある程度成功するというパターンがあったし、会社の経営も、ひとつの形を作れば、それを踏襲して前に進めるところがありました。しかし今や、そういう成功パターンは通用しなくなっている。変化する一瞬一瞬に対して、判断していかななくてはいけないと思うのです。

黒川：変化し続ける中で、一定の形を成していくとでも言うのでしょうか。

斎藤：ぼくの、組織を率いる立場でいろいろやってきましたが、最後にわかったのは、自動操縦みたいに手放しで進んでいく組織を作るのは不可能だということです。

黒川：お話を聞いて感じたのですが、「伝統と革新」について、思うことがあるのです。「伝統と革新」という言葉は、私も以前はよく使っていたのですが、ここ10年ほどは、自分からは使わないことにしています。「革新」といえるほど思い切ったことは、果たしてどれくらいあるかと考えていたら恥ずかしくなってきました。そうたくさんはないと申しましたからです。そんな大層なことの前に、今のお客様に喜んでいただくために何を考えるのかを考え、即座に実行していくことが大事。それは、「必然であって、革新ではない」とおもうのです。

著書：老舗の流儀 虎屋とエルメスより

著者：黒川光博（虎屋：代表取締役社長）

斎藤峰明（エルメス：フランス本社副社長）

感性を敏感に。

2017年1月25日

さいのう とおる

追伸：暖冬だと思っておりましたが？インフルエンザに注意。手洗い・うがい！